

第1682号

3

2025年
ISSN 0039-4866

水産総合月刊誌 明治25年9月26日第三種郵便物認可 令和7年2月25日印刷納本
令和7年3月1日発行(毎月1回1日発行 第1682号)

水産界

- ◇ ベトナムにおける水産資源持続的利用WSの開催
- ◇ ブロック会議(関西・中国四国地区)開催



シーフードショー大阪 開会式

ハラルビジネスでニッチトップ戦略 ②④

全世界に20億人とも言われるイスラム教徒のハラルマーケットは、輸出、インバウンド共に今後成長が見込まれます。一般社団法人ハラル・ジャパン協会が推薦する、ハラルビジネスに取り組み、輸出・進出に挑戦する企業を連載で掲載してまいります。

企画：一般社団法人ハラル・ジャパン協会 ホームページ：<https://jhba.jp>

株式会社ぷらんつ

株式会社ぷらんつは、長野県にある青汁の専業メーカーです。自社で青汁製造の専用ラインを有し、特許製法により無添加の青汁を製造しています。弊社の青汁「VEGE presso®」(ベジプレス)は、食品添加物、増量剤、保存料、着色料、香料などを入れない「ピュア・ナチュラル製法」による100%自然主義の「植物のチカラ」にあふれた青汁です。品質管理は、HACCPを含む食品安全規格であるJFS-Bを取得しております。

青汁を「天然のサプリメント」と位置づけ、忙しい日々を送る方々に健康をお届けすることを使命としています。



ハラル認証を取得したきっかけ

展示会やセミナーで「世界人口の約4分の1がムスリム」という事実を知り、私たちはイスラム市場の可能性に大きな魅力を感じました。もともと「ハラル」には関心を持っていましたが、ハラル・ジャパン協会の佐久間

代表との出会いを通じ、その市場の広がりや成長性を一層強く実感しました。この出会いをきっかけに、私たちはアジア圏への輸出展開を本格化させるべく、先行投資の意味も込めてハラル認証の取得に挑戦することを決意しました。

また、ハラル認証はイスラム市場に参入するための「スタートラインに立つ証」だと考えています。認証取得にあたって、まず取り組んだのはHACCP(食品安全管理システム)の取得でした。ハラル認証の基準にはHACCPと共通する部分が多く、さらに私たちの無添加・植物性という製品づくりの方針が認証取得を後押ししました。このような背景から、比較的スムーズにハラル認証を取得することができました。

そして2022年3月31日、私たちの本社工場で製造する全34種類の青汁シリーズについて、NPO法人日本アジアハラル協会(NAHA)の認証を取得しました。

2015年の創立以来、私たちは「植物のチカラを最大限に生かす」という想いのもと、植物の可能性を研究し続けてきました。例えば、そばの葉に含まれるルチンなど、自然の恵みを純粋な形で届けることを目標に掲げています。しかし、現在市場に出回る多くの青汁製品には、食品添加物が含まれているのが現状です。コスト削減や製造効率を優先した結果ですが、私たちはあえてその道を選ばず、「全

て無添加」の製品づくりにこだわっています。社名の「ぷらんつ」もその思いから名づけています。

今後も「植物のチカラ」を最大限に引き出した無添加青汁を通じて、イスラム圏を含めた世界中の方々に健康をお届けし、より多くの人々が安心して健康的なライフスタイルを送れるよう、私たちは挑戦を続けてまいります。



代表的なハラル認証商品のご紹介

・国産青汁100% 20包



国産の大麦若葉、ブロッコリー、ケール、桑の葉のみを使用した本格青汁です。食品添加物、デキストリン、でんぷんを加えない葉っぱ100%の無添加青汁です。野菜不足を手軽に補えます。

・国産青汁乳酸菌



一包に200億個の乳酸菌を配合。腸内環境を整え、健康維持をサポートします。クセがなく飲みやすい青汁です。

・青汁サラシア



糖質制限を意識した「サラシア」を配合し、美肌ケアや健康管理を求める方に人気です。

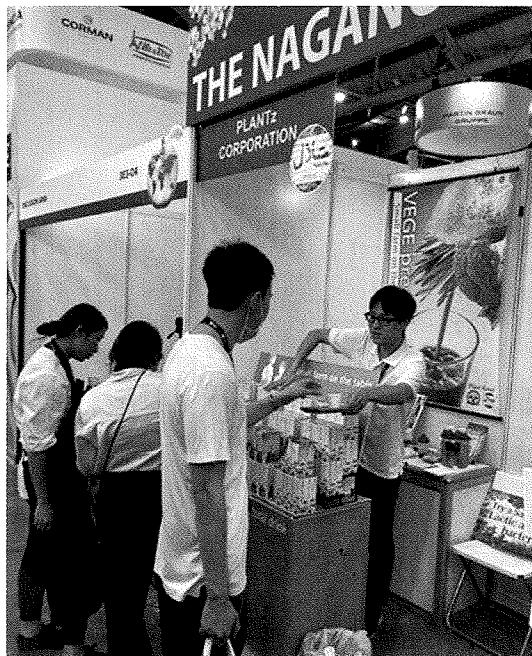
主な海外輸出先

現在、シンガポール、マレーシア、香港、台湾などアジア圏への輸出を展開中。これからもイスラム市場やプラントベース食品市場への進出を加速させ、「植物のチカラ」を多くの方々に届けたいと考えています。

また、厚生労働省が推奨する1日350g以上の野菜摂取をサポートし、青汁を通じて健康的なライフスタイルを世界に広めていきます。

SDGsへの取り組みと未来展望

株式会社ぷらんつは、「すべての人々の健康を維持・改善し、幸せを感じられる社会の実現」を経営理念として掲げています。この



理念は、SDGs（持続可能な開発目標）の目的と一致しており、社員一人ひとりがその実現に向けた役割を果たすことで、SDGsの達成に貢献したいと考えています。

具体的には、次のような取り組みを進めています。

- プラスチック代替包材の使用削減：環境負荷を減らすため、持続可能な素材の採用を進めています。
- 野菜不足を補う商品開発：健康に貢献する新しい青汁製品を増やし、野菜摂取不足の

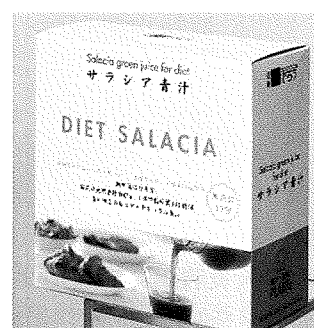
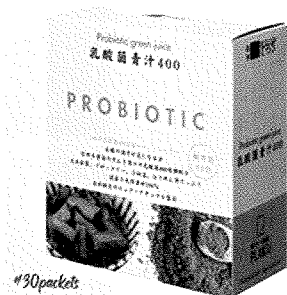
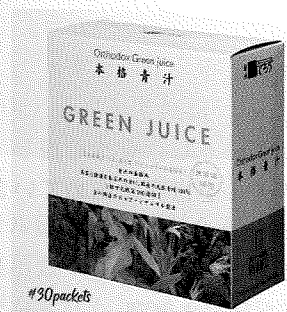


解消を目指しています。

- 地元の食材を活用：地域の農産物を積極的に取り入れることで、地元経済を支えると同時に、安全で高品質な製品を提供しています。

これからも「青汁で世界を健康にする」ことを目標に掲げ、国内外での事業展開を拡大してまいります。

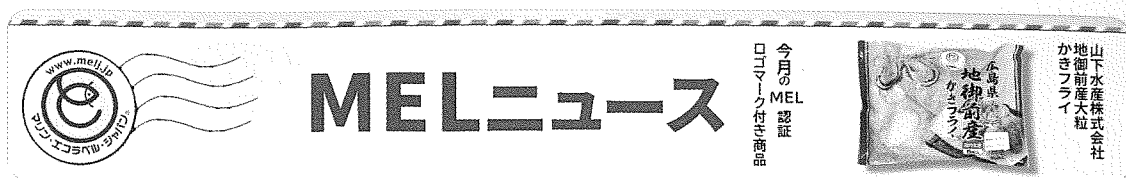
聞き手：ハラル・ジャパン協会 広報ディレクター土岐



ホームページ

野菜たっぷり無添加青汁《公式》ちっちゃな農園ベジプレッソ

<https://vegepresso.com/>



長岡専務がベトナムでの水産資源持続的利用ワークショップ(WS)に出席

皆様明けましておめでとうございます。遅くなりましたが、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

2025年乙巳、「不確実性の年」が先の見えない不安の中でそろりとスタートしました。重たいニュースが日替わりで登場していますが、食の安全保障において期待が高まる水産業も海洋環境の変化や人口減少からは逃れられません。負の出来事にしぶとく対応して頑張りたいと願っております。

1. 国際標準化関連

GSSIの新基準(BenchmarkToolVersion2)によるMELの養殖認証規格と漁業認証規格の承認から1年が経過したため、GSSIによる承認継続審査(MOCA)が2024年12月下旬から開始されました。そのため新たに審査報告書と改定された規程と最新の業務報告等を英文で提出し、提出後に項目別の審査員(IndependentExpert:IE)から審査されます。1月末の提出締め切りに向けて、準備を進めています。

2. 認証発効関連

今月の認証発効はありませんでした。

3. 認証取得者からのご報告

今月は、能登半島地震から1年余、復興に取り組まれる現地の皆様の状況を石川中央魚市(株)の竹田美沙様にご報告いただきました。

「復興と持続可能な水産流通に向けて」

石川中央魚市株式会社
管理部 竹田 美沙

弊社は石川県金沢市の中央卸売市場で卸売を生業とし、今年59周年を迎えます。MEL認証(CoC認証)は2020年に取得、国際承認のMELとしては北陸で初の企業となりました。この度、令和6年能登半島地震から1年が経ち、MEL協議会より石川の水産物の販路回復に向けてお話しする機会をいただきました。

皆様ご存じではあるかと思いますが、能登地方の生産者等の水産関係者は船の損傷や海底の隆起、工場の倒壊など大きな被害を受けました。弊社では大きな物的被害および人的被害は無かったものの、2008年から始まった石川県産の水産物のみを扱う午前8時30分開始の2番セリ、通称“朝セリ”の開催が中断されています。この朝セリの出荷者の大半



朝セリの様子